

～ 胃ピロリ菌 ～

胃ピロリ菌抗体

胃炎や胃がんの原因であるピロリ菌に感染すると抗体が作られます。ピロリ菌に感染していることが判明した場合は、除菌することが推奨されています。ピロリ菌の除菌は胃がんリスク軽減に効果があるといわれています。

考えられる疾患・受診科

高値：ヘリコバクター・ピロリ感染症
《消化器内科》

ペプシノゲン

血液中のペプシノゲンを検査し、萎縮性胃炎を調べることができます。萎縮が強くなるほど胃がんになりやすいといわれています。

考えられる疾患・受診科

陽性：萎縮している可能性あり。内視鏡検査をお勧めします。
《消化器内科》

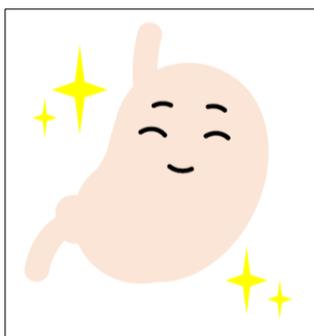
ABC検診

ピロリ菌感染の有無とペプシノゲン(胃粘膜の萎縮度)を調べ、胃がんリスクをABCで表したものです。

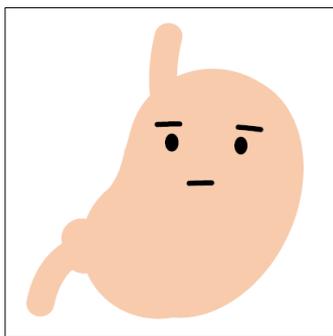
考えられる疾患・受診科

A群：萎縮なし B群：軽度萎縮 C群：萎縮が進行 D群：萎縮高度
E群：除菌によりペプシノゲン値が改善しても胃の萎縮は改善しません。
※B～E群：定期的な内視鏡検査をお勧めします。
《消化器内科》

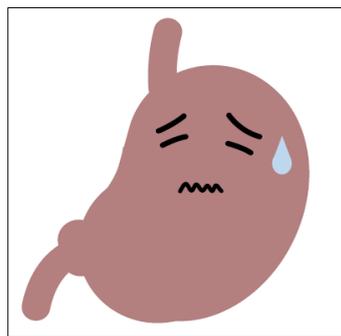
A群 健康な胃



B群 少し弱った胃



C群 弱った胃



D群 かなり弱った胃

